



ード大学に入れるって本当?

ハーバード大学をはじめとするアメリカのトップ大学は、
世界一の教育が受けられるゆえ、入学試験も超難関。遠い世界—
—と思いませんか? 実はそんなトップ大学には、
書類選考だけで入れます。偏差値は関係ありません。
では一体、何が必要なのでしょう?

you can
go
Harvard
University

英語ができれば可能性アップ



狙ってみたい アメリカの 一流大学

アメリカ中・東部

ハーバード大学

マサチューセッツ州
ケンブリッジ
年間費用：4万3655ドル
学部留学生比率：9%

マサチューセッツ 工科大学 (MIT)

マサチューセッツ州
ケンブリッジ
年間費用：4万3550ドル
学部留学生比率：9%

イエール大学

コネチカット州
ニューヘイヴン
年間費用：4万5000ドル
学部留学生比率：8%

コロンビア大学

ニューヨーク州
ニューヨーク
年間費用：4万6095ドル
学部留学生比率：6%

プリンストン大学

ニュージャージー州
プリンストン
年間費用：4万3980ドル
学部留学生比率：11%

シカゴ大学

イリノイ州シカゴ
年間費用：4万7007ドル
学部留学生比率：13%

アメリカ西部

スタンフォード大学

カリフォルニア州
スタンフォード
年間費用：4万5608ドル
学部留学生比率：6%

カリフォルニア 工科大学

カリフォルニア州バサデナ
年間費用：4万2475ドル
学部留学生比率：8%

(1) 2008年3月号「世界大学ランキング
のトップ10常連リスト」より抜粋。2005
~2007年度のデータ

国連事務総長や 元アメリカ副大統領に 会える！

「たった一週間のうちに、国連事務総長、元アメリカ副大統領、ノーベル文学賞の選考委員長に会える場所はほかにないと思います。ここでの金融危機を受けて、急ぎよ著名な経済学の教授を集めて討論会を行ったり。入学してすぐに感じますが、日々さまざまなイベントがあり、常に新しい人に会うことができます。学生が皆、寮で生活を送るため、朝から晩まで、常にキャンパスで何かが起こっています」

と楽しそうに学生生活を話すのは天野友道さんだ。都内の高校を卒業し、九月からハーバード大学の学生になった。

そして、偏差値50レベルの高校生でも、ハーバード大学に入学することはできるか、の質問に「可能だと思う」と言う。「偏差値は、総合的な入学審査を行うアメリカの大学と関連するものではありません。日本の受験は入試での試験の点数が合否の決め手になるのに対して、アメリカの入学審査は、高校での成績や課外活動が総合的に評価されます」

野さん

ハーバード大といえば、誰もが知っている、世界に名をとどろかすアメリカのトップ大学。その在学生がそう断言するのは、なんと夢のある話だろう！では一体、どんな入試が行われているのか。アメリカの入学試験制度を説明しよう。

*

「ハーバードの学生の学力レベルは、日本人が思っているほど高くありません」と語るのは、一昨年、ハーバード大学教育大学院(修士課程)を修了した多田誠さん。東京理科大を卒業後、約三年の準備期間を経てハーバード大学院へ進学し、「人間発達心理学」を学んで帰国した。

とても勉強ができる学生ばかりが集まっていると思いきや、大学院の学生でも「学力レベルが高くない」とは信じがたい話だが、やはり理由はアメリカの大学入試制度にあるという。

「アメリカの大学の場合、日本のように学科試験の成績で合否を判定しないからだと思います。『GRE』という共通試験もありますが、それは審査の一部にすぎません。特に数学は問題そのものが簡単で、準備さえすれば満点(800点)を取れます。基礎学力のレベルに限って

偏差値55でハーバ



ハーバード大学内は
緑が多く、
休日には観光の
ツアーもある

「日本の学生の
基礎学力はアメリカの
トップ大学生に
ひけをとらない」

田端広英=文

Fraser Hall / Robert Harding World Imagery / Corbis / アマナイメーجز(扉)=写真

アメリカの大学受験がわかるQ&A

Q 受験のために必要なものは?

大きく分けて以下の6つ。

● **SATやGREのスコア**
それぞれ大学進学適性検査と大学院進学適性検査。1年に5～6回行われ、どの回を受けてもいい。日本でも受験できる。

● **GPA**
内申点、各教科の平均点。トップ大学だとGPAが3.5(成績の5段階評価で4.5)以上。

● **課外活動のアピール**
部活動、生徒会活動、ボランティアなど。

● **TOEFLのスコア**

● **推薦状**
学校の先生からの推薦状。

● **エッセイ**
大学の志望動機や将来の目標など。大学独自のテーマを要求される場合も。

Q どういう比重で審査される?

A アゴス・ジャパンによると履修学科(バランスよく勉強してきたか。日本の高校に通ってればおおむねOK)とGPA60～70%、SATやTOEFL 20%、その他、エッセイや社会活動など特記事項10～20%。ただ、トップ大学であればあるほど、優秀な学生が集まり、履修学科、GPA、SAT、TOEFLでは学生の差がつかないので、エッセイや特記事項が重要になってくる。

「例えば、日本人も決してひけはとりません」(多田さん)

「GRE」(大学院進学適性検査)とは、アメリカの大学院入学のために受ける日本のセンター試験のようなもの。大学を受ける人は「SAT」(大学進学適性検査)を受ける。科目は基本的に読解(英語)と数学。大学が指定する場合は選択科目の受験も必要だ。SATやGREは「足切り」の材料にはならない。

可否の判定は、SATやGREの学科試験のほか、日本の「成績評定」に相当する高校や大学の過去二年間の成績評価指標「GPA」のスコア、「TOEFL」のスコア、自分の考えを表現する「エッセイ」、生徒会活動やボランティアなどの「課外活動」等々を総合的に加味して行われる。

「入学志望者を多方面から見て評価するのがアメリカの大学入学審査の特徴です」と言うのは、アメリカの大学や日本のAO入試のコンサルティングをしているホープス代表の野村り子さん。「SAT」の数学は日本でいうと中学生の算数のレベル。「GRE」もそう難しくありません。もちろんSATやGPAなどの学力が優秀なだけではだめです

が、逆にいくらボランティアなどの課外活動に力を入れていても合格できません。アメリカのトップ大学では、将来、世界のリーダーになるような総合的な力を学生に求めています。偏りがなく人格を見つめる制度だといえます」(ホープス野村さん)

トップ大学を受験するなら、過去二年間の成績はオール5が必要

多面的に評価するとはいつても、ハーバード大学やコロンビア大学など世界的にも有名な超難関大学に合格するためには、満たさなければならぬ最低基準がある。最も重要なのがGPAスコアである。GPAは、高校は三年間、大学なら過去二年間の成績を0～4.0までポイント化したもの。日本の5段階評価の場合、オール1なら「0」、オール5なら「4.0」と考えればわかりやすい。

「入学審査は決まった計算式にあてはめられません。GPAは合否判定の半分を占めるくらい重要な要素だと考えています。トップ校の場合、GPAは3.5(日本の成績で平均4.5)以上、つまりオール5近くとらなければ合格は難しい」と

語るのは、留学コンサルティング会社アゴス・ジャパンの後藤道代さん。主に社

会人向けの留学コンサルティングをしてきた同社では、昨年から高校生向けの大学留学講座を始めている。

「GPAでは、高校のレベルは問われません。大学側は、与えられた環境でどのくらい頑張っているか、を見るからです。いくらレベルの高い高校に通っていても、そこでの成績が悪ければ難しい。偏差値72の高校での3.0よりも、二番手の高校でも3.5を取ったほうを評価するのがアメリカの大学です」

つまり、日本人が挑戦する場合、GPAに関して言えば優秀な生徒が集まるトップ進学校より、評定を上げやすい中堅校のほうが有利ということになる。日本の大学なら各地の高校がどれくらいの難易度か細かく知っているものの、世界から学生が集まるような大学は志願者の高校のレベルをチェックしたりはしないのかもしれない。

留学生の場合、TOEFLスコアも問われる。トップ大学の場合は、二〇〇六年から移行したiBT(インターネット版)では二〇〇点満点中、九〇～一〇〇点が必要といわれる。この数値はかなり難易

度が高いといえるかもしれない。

〇六年にスワースモア大学を卒業した和木敦明さんは、「日本から留学するのには一番大事なのは英語。日本の高校の英語だけでは間に合いません」と語る。スワースモア大は、日本でこそあまり知られていないが、リベラルアーツ(少人数制の大学)の全米トップ校。総合大学(ユニバーシティ)のハーバード大やコロンビア大などと並び、高く評価されている大学だ。

「TOEFLの点数はすぐには上がらないので、僕の場合、高校二年くらいから勉強して徐々に上げていきました。SATやエッセイにも英語力は不可欠。大学入学後も当然、必要になります。語彙や文法、論理的な文章を読む力など、日本でできる限り学んでおくことが大事だと思います」(和木さん)

アゴス・ジャパンの後藤さんも、英語は早めに準備することが重要だと話す。「今、お子さんが小中学生の場合は、海外のサマーカーンや国際交流イベントなどに参加して、生の英語に触れておくといいと思います。英語を話したいという動機をつくることも効果的な勉強方法だと思えます」

UCLAなら コミュニティ・カレッジからの 編入でラクラク入れる!?

ただし、いくらGPAやTOEFLのスコアが良くても、「ガリ勉」タイプではアメリカの大学の合格はおぼつかない。「友達とも遊ばず、部活や課外活動もせず、一生懸命勉強をしているような子の場合」は日本の大学受験のほうが合っているかもしれない（ホープス野村さん）

願書ではSATやGPA、TOEFLの点数のほか、「課外活動」や「エッセイ」の項目では、ボランティアなどのコミュニティ・サービスの経験やスポーツや趣味、習い事などの成果、生徒会活動といった学業以外の経験が問われる。そして、こうした経験が重要視されるのが、アメリカの入学審査が「総合的」といわれる所以だ。トップ大学ほど入学審査となると点数では差がつかないため、「課外活動」や「エッセイ」が可否を分けることになる。エッセイについては、日本からの受験生が苦労するところだ。「トップ校の受験がうまくいく人に共通しているのは、他人にアピールできる経験や能力を持っていること。この部分

が一番のネックになります。大学受験を考えてからの短期間では得られないものですから、小中高校とこれまで何をしてくいて、何を考えてきたのかが重要になるんです」（アゴス・ジャパン後藤さん）

その経験とは何か。後藤さんによれば、何か一つは人には負けないことをつくっておくことでもいいし、中高時代に勉強以外の活動で成し遂げたことでもいい。

「普段英語で文章を書くことはありませんから、テーマ設定から文章を完成させるまで二カ月ぐらいかかりきりでした」と語る和田さんの場合は、幼い頃に東欧で暮らした経験から「政治学を学び国連で働きたい」旨をエッセイに詳述した。

多田さんの場合は、少子化による労働力不足を解消するため「ニート問題」の解決が不可欠で、ニートを理解するため心理学を学びたいと書いた。

「アメリカでは、ニート問題は日本ほど注目されていませんでしたから、興味を引いたのかもしれない」（多田さん）

アメリカの大学へ進むにはいくつかの道がある。第一に、天野さんと和田さんのように日本の高校にいながら受験し、卒業後、アメリカの大学に進む方法。正攻法だが、ハードルは決して低くない。

→ 高偏差値の進学校より、 レベルの低い高校で いい成績をとったほうが 断然有利!?

学生寮の中。
上はハーバード大学、
下はスワースモア
大学の部屋



出願って どうすれば いいの?

出願は、「Common Application」というアメリカの大学共通のインターネット願書を使用する機会が多い。日本にいながら受験でき、また何校でも出願が可能。出願料は学校によってさまざまだが、1校につき50ドル程度。願書には課外活動、エッセイ、先生の推薦状のほか、両親の学歴や年収を書くページなどがある。

お金が かかるのでは?

確かにお金はかかる。年間4万ドル以上もかかることが多い。また大学ではファイナンシャル・エイドという、親の年収に応じて学費が減免される制度があるが、留学生の場合は、奨学金が必要な人は入学審査において不利になる場合も多い。しかし一部のトップ大学では、経済面を審査に入れない大学がある。アゴス・ジャパンの後藤さんによれば、総合大学でハーバード大、プリンストン大、イエール大、マサチューセッツ工科大、ダートマス大学、リベラルアーツ大学でアムハースト大、ミドルベリー大、ウィリアムズ大は、経済的援助が必要だとしても、入学審査には影響しないと公表している。インタビューした留学経験者のなかには、日本からの留学生を支援する財団法人の奨学金（グループバンク・バンク・フルブライト奨学金など）を利用する人もいた。

難易度別 トップ大学への 5つの ロードマップ

1 スタンダードだけど
難しい
難易度 ★★★★★

日本の高校から 海外トップ大学

もっともスタンダードだが、一番難しい道。トップ大学だと高校時代の内申書がほぼオール5、英語力があることは前提。そのほかに、アピールできる課外活動経験があり、個性的なエッセイを書けなければならないなどと、日本の高校では訓練されていないことが試されるからだ。また、日本では個別の大学の最新情報が少ないことから、英語で書かれた大学のホームページの情報を自ら得ていかなければならない。

2 もっとも現実的な
選択肢
難易度 ★

海外大学から 編入して 海外トップ大学

たとえば州立のUCLAやUCバークレーは州内のコミュニティーカレッジ（2年制大学）からの編入（トランスファー）を広く受け入れている。コミュニティーカレッジで編入するための単位を取得したら自動的に進学できる。コミュニティーカレッジへの入学審査はなく、誰でも入れる。ただ編入制度があるのは一部の大学で、ハーバード大学をはじめとする多くのトップ私立大学への編入はできない。コミュニティーカレッジの授業料は年間70万円程度。

「日本からの出願者が少ないということもありますが、ハーバード大学だと今年合格者二七五人中一人でした」（ア
コス・ジャパン後藤さん）

しかし、ハードルを下げる方法はあるとホープスの野村さんは第二の方法を挙げる。

「トップ大学への入学を希望する親子にお勧めするのは、入りたい大学に合格実績を持つアメリカの名門高校を経由して行くことです。そういう学校には受験専門のカウンセラーの先生がいて、願書やエッセイの書き方も指導してくれます。

例えば、アメリカには「アーリー・アドミッション」という制度があります。一般的な出願期間より早い時期（夏ぐらい）に「他校は受けません。御校に必ず行きます」と宣言することで、合格の確率は上がる。こういった最新情報は日本には入りづらいですから」

第三の方法としては、コミュニティーカレッジ（2年制の州立大学）からの編入という道がある。ハーバード大学やプリンストン大学など私立のトップ大学には編入制度はないが、多くの州立大学では用意されている制度だ。例えば、カリフォルニアの州立大学を目指す場合、同校

と同じ州内のコミュニティーカレッジの編入コースに入学。ここで必要な単位を取得すれば、三年からスムーズに編入ができる。

「コミュニティーカレッジへは、高校を卒業していれば無試験で入学できます。留学生の場合、TOEFLスコアの提出が必要ですが、iBTで五〇〇六〇点程度。英検準一級、二級ぐらいです。日本でも知名度が高いUCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）、UCバークレー（同バークレー校）などはこの方法で編入ができます」（アコス・ジャパン後藤さん）

第四の方法は、才能を持った人のための一芸入試的な制度。音楽や芸術、スポーツなど、ある分野に秀でている学生を獲得するための枠が設けられている。その場合出願時に、音楽であれば録音したもの、芸術であれば作品のポートフォリオ、スポーツでは大会で優秀な成績を収めたことを証明するものを提出する。

第五の方法は大学院から入学することだ。日本でキャリアを積んでからハーバードの教養大学院に留学した自身の経験から、トップ大学の大学院を狙ったほうが、大学を狙うよりもハードルは下がる、野村さんは言う。

「高校までの経験を願書やエッセイに生かすのは、机に向かって学ぶ勉強が中心の、日本の教育ではなかなか厳しい。その点、大学院からの受験だと、大学時代に目標を持ってすごせば、サークルやボランティア活動で得た経験から将来の展望をアピールすることができます。もちろん大学でオール5をとること、TOEFLのスコアは欠かせませんが」

アメリカのトップの大学では大学院進学率が高く、一学年の定員も大学の学部よりも大学院のほうが多いことから、狙いやすいかもしれない。

「アメリカの入試は『敗者復活戦』の受験だと思っています。たとえTOEFLのスコアが基準といわれている点に届かなくても、無理だと思いつながら出願した人が、SATやエッセイなどほかの面が評価されて合格するという事例も私は知っています。そういった融通が利くのもアメリカの大学の面白いところですよ」（ホープス野村さん）

就職活動では 敬遠されませんか？

話を聞けば聞くほど、アメリカの大学が身近に思えてくる。

とはいっても、就職や大学院でアメリカに残るならまだしも、日本に帰国することを考えた場合、就職への不安は拭きれないだろう。

和田さんは、帰国後、東京大学大学院へ進学。国家公務員I種試験に合格し、来春には外務省に入省予定だが、やはり就職への不安があったのだろうか。

「僕の場合は、留学経験を生かして働く場所として外務省を志望しました。確かに卒業時期の違いから、日本の就職戦線に加わりにくいことは不利かもしれませんが、ただ、『ポストンキャリアフォーラム』など、現地での採用活動もありますから心配ないと思います」

毎年秋、開催される「ポストンキャリアフォーラム」は、日本企業がアメリカの大学を卒業する日本人学生を募集するために開催する就職フォーラム。今年度は一七二社が参加し、メーカーから、外資のコンサルティング会社、政府系金融まで有名企業がひしめいている。

「日本での就職活動のリスクから、アメリカの大学へ進むことをあきらめるのは、やめたほうがいいと、相談にくる後輩に言っているんです。アメリカの大学に行つてよかったと思うのは、非常に教授と

3 金銭的に余裕のある家庭向け 難易度 ★★★★★

海外の高校から 海外トップ大学

トップ大学に多くの卒業生を輩出しているプレップスクール(名門私立学校、中3から高3までの4年制)に編入するという手もある。「進路指導、願書の書き方を専門カウンセラーが指導してくれるため、日本で受験するよりも入学しやすくなるでしょう」(野村さん)。ただ名門プレップスクールは名門私立大学並みの高額な授業料がかかってしまう。金銭的に余裕がある家庭にはお勧め。

4 大学の経験と英語の勉強を 難易度 ★★★★★

日本の大学から 海外トップ大学院

「大学時代の経験を願書でアピールしたり、エッセイを書くことができるので、高校からトップ大学に行くよりも比較的入学しやすくなるかもしれない」(野村さん)。アメリカのトップ大学では大学院進学率が高い。ハーバード、コロンビアなど総合大学の場合、学生数は学部よりも大学院のほうが圧倒的に多いことから大学より大学院のほうが入りやすい。

5 音楽、スポーツ、アート…… 番外

才能勝負の入試

トップ大学では幅広い才能を求めため、スポーツや芸術面などで突出した才能を持っている人に対しては、SATやGPAなどの基準を一般とは別に審査する。日本人ではハーバード大学にバイオリニストの五嶋龍、コロンビア大学にミュージシャンの宇多田ヒカルが入学したのが例。願書と一緒に、作品の演奏を録音したCDなどのポートフォリオを提出する。もちろん才能を持っている人々のなかで選抜されることになるが、世界的なコンクールの入賞経験がある人はチャレンジしてみてもいい。

の距離が近かったこと。教授の家に邪魔して勉強することもありました。課題にしても細かい添削をしてくれました。教授も熱意をもって教えるから学生もみんな勉強熱心でした。リスク以上に得るものが必ずありますから」(和田さん)

また、日本で得られる人脈やステータスも、日本の大学では得難いものだ。「国連やILOなど国際機関からの派遣留学生も多かったですね。彼らが口を揃えるのは、企業や団体で昇進・昇格するためにトップ校で学ぶ必要があるということ。世界で勝負したい場合は、トップ校を卒業するメリットは大きいと思います」(多田さん)

アジア諸国に比べ、 少ない日本人の留学。 今がチャンス

「アゴス・ジャパンの後藤さんは、「もっと積極的にアメリカの大学に挑戦してほしい」と背中を押す。

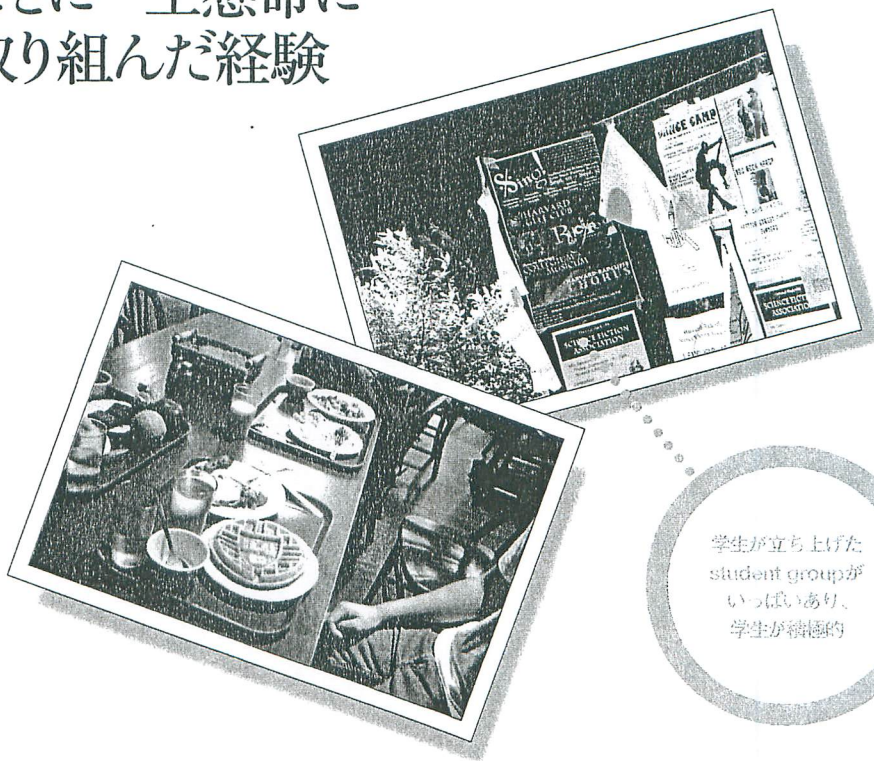
「中国や韓国などのアジア諸国に比べ、日本人の留学生が少ないのは出願数そのものが少ないため。挑戦者が少ないのは逆にチャンスです。アメリカの大学は多様な学生を求めていますから。日本の高校の中にも、生徒にテーマを持たせて研究学習をさせている学校がありますね。そのような学校でいきいきしている生徒さんには、アメリカの大学教育が合っていると思います。非常に可能性を感じます。あとは高校の国際科に通っているような、中学のときから海外に目を向けているような生徒さんも挑戦してほしいと思いますね」

アメリカのトップ大学に入学することは、決して高偏差値の子供だけに開かれた道ではない。日本の大学と同じように、わが子の進路のひとつに考えてみていいのではないだろうか。

ハーバード大で学ぶ天野さんはこう話す。

「アメリカの大学受験は、出願してみないと合格するかどうかわからないため、大きなリスクがあります。私の場合、リスクを小さくするため日本の大学にも出願しましたが、どちらの国の受験も決して簡単ではありませんでした。しかし、こちらの大学は学生の知的好奇心を刺激し続けられるような環境になっています。常に新しいことに会うチャンスを求めている人は、チャレンジしたほうがいいと思います」

→日本の高校生に 足りないのは、勉強以外の ことに一生懸命に 取り組んだ経験



学生が立ち上げた student group が
いっぱいあり、
学生が積極的

天野友道さん(P.103~107)、佐久間真紀さん(P.105下)＝撮影